

南信州広域連合第11回広域連合会議 結果報告

日時：令和2年2月14日(金) 15:45～16:40

場所：県飯田合同庁舎301号会議室

【出席者】14市町村長（大鹿村副村長代理出席）、副管理者

〔南信州地域振興局〕丹羽局長

〔飯田建設事務所〕丸山所長

〔飯田保健福祉事務所〕松岡所長

〔飯田広域消防〕赤羽目消防長・有賀消防次長兼総務課長

〔飯田環境センター〕北原事務長

〔事務局〕高田事務局長・松江事務局次長・加藤次長補佐兼庶務係長

櫻井次長補佐兼広域振興係長・秋山介護保険係長・宇佐美庶務係主事

1 開会…15:45

2 広域連合長あいさつ

3 協議・報告事項

(1) 令和2年南信州広域連合議会第1回定例会について（資料No.1）【説明者：高田事務局長】

開催日は令和2年2月26日(水)。議会運営委員会は2月6日に開催された。一般質問通告締切りは、2月17日(月)午後5時。2月26日本会議終了後、全員協議会を予定している。

* 令和2年南信州広域連合議会第1回定例会に付議する案件について

議案審議は8件。

1. 南信州広域連合広域計画の変更について、新たに広域基本計画部分(令和2～6年度)を策定し、第4次広域計画に追加するもの。

議会からアリーナ等の施設建設整備に関して意見をいただいたので、その部分について1月以降修正を加えた。その部分の確認をいただきたい。

第5節第1項アリーナ機能を中心とする複合施設整備検討事業の中で、「また、広域連合議会においても「アリーナ機能を中心とする新施設整備検討委員会」を設置して検討され、意見書が提出されています。」と記載し、意見書の内容については次の項目で説明。

意見書を踏まえて、基本的考え方の再整理を行い、それと整合する形で計画の中で以下のように進め方をまとめた。

「こうした検討を進めるにあたっては、リニア開通効果を地域振興に活かす観点から、アリーナ機能単体の検討ではなく、リニア駅周辺整備、エス・バード、飯田文化会館等と連携して地域づくりを推進する構想(ビジョン)を描く必要があります。このビジョンの検討においては、国、県、市町村、隣接地域等の計画、取組みと連携する視点が重要です。

また、新施設のあり方については、「スポーツ文化の醸成」の観点で、圏域全体で機運を高める取組みを行う必要があります。

さらに、リニア開業効果を取り込むことができる新施設像について、民間の考え方の導入や関係する団体等との連携も必要です。

以上の「基本的考え方」から、リニア駅を核として、その周辺に整備された或いは今後検討される機能と本施設が連携する地域ビジョンを描くことと並行して、ビジョンを具体化するために必要な民間事業者へのアプローチを行う中で、アリーナ機能を中心とする複合施設整備の検討を進め、地域の合意形成を図っていきます。」

すでに議案になっているので後承認の形になってしまったが、こういった形で最後の修正を行った。

2. 令和元年度南信州広域連合一般会計補正予算（第2号）案
3. 令和元年度南信州広域連合飯田広域消防特別会計補正予算（第1号）案
4. 令和元年度南信州広域連合稲葉クリーンセンター特別会計補正予算（第2号）案
5. 令和2年度南信州広域連合一般会計予算案
6. 令和2年度南信州広域連合南信州広域振興基金特別会計予算案
7. 令和2年度南信州広域連合飯田広域消防特別会計予算案
8. 令和2年度南信州広域連合稲葉クリーンセンター特別会計予算案

※令和2年度南信州広域連合予算案の特徴及び概要について

特に留意したところは、後期基本計画の予算化の状況。これから5年間の後期基本計画を進めるにあたり、予算とどのように整合させるかということで整理をした。

後期基本計画の「章節項」、「計画計上事業名等」、「基本計画期間中の取組み・方向性」、「令和2年度予算計上の状況」として一覧にまとめた。こういう形で毎年度作成し、5年間の進行管理を行う。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(2) アリーナ機能を中心とする複合施設整備検討事業について（資料No.2）【説明者：松江事務局次長】

議会から提出された「南信州広域連合が計画するアリーナ機能を中心とする新施設整備に関する意見書」について

1月28日に議長から広域連合長に提出されたもの。

経過としては、令和元年8月に「アリーナ機能を中心とする新施設整備検討委員会」が議会に設置され、この検討委員会では、議会を構成する4ブロックにおけるブロック会議の開催や体育協会との懇談を行い、1月23日に全員協議会を開催し報告をした。その報告をもとに議会としての意見書を提出。

*意見書の内容について（4項目）

1. 当該施設のあり方について

平成29年3月13日の県知事に対する「県の屋内体育施設の整備」の要望書、体育協会が実施した署名活動、これらにより地域の振興を目指す取組みとしてこういった検討は尊重すべきものである。一方で、郡市民がどのように施設と関わっていくのか、さらには費用負担に関してどのように住民に理解を求めていくかについて、まだまだ理解も議論も不足しているのではないかと。

こうしたことから、改めて当該施設のあり方について「スポーツ文化の醸成」の観点で郡市民を巻き込む議論を起し、機運を高める取組みを推進されたい。

2. 当該施設とリニアの開通に地域振興のあり方について

・アリーナ等施設設置の必要性に関する様々な意見を踏まえたリニア開通による地域振興の観点からの検証が必要。

・地域のスポーツ振興を図るための広域連合としての取組みに関する検討が必要。（体育協会との協働、スポーツコミッション等の視点）

3. 当該施設の経営に関して（施設の建設・運営の方式等）

議会として現時点で「造る、造らない」を判断していない。

・整備費及び運営費用（財源も含めて）等に関する十分な検討と精査。

・公設民営の検討に当たり、管理を任せる民間事業者についての十分な調査の実施。

・整備に関する課題や状況を踏まえた総合的な判断、「リニア開通後の整備」も選択肢に含めた整備時期の検討。

・施設の規模及び設置場所に係る検討又は進捗状況についての議会との情報共有。

4. 三菱UFJリサーチ&コンサルティングに調査依頼した「新施設の整備に関する調査報告書」からの考察

調査報告書によれば、この地域においてはコンベンション・アリーナ共に事業性の確保は厳しい

との結果が示されていることを踏まえて、以下の点について検討されたいというもの。

・民間の考え方を取り入れたリニア開業効果を取り込むことができる新施設的具体像についての検討が必要。

・調査結果を踏まえたスポーツ振興の拠点としての大型屋内体育施設の検証及び関係する団体又は機関との協議、検討の推進が必要。

※これら4項目につき、南信州広域連合第4次広域計画「基本構想・基本計画」後期基本計画の中で十分な検討を進められたい。

*この意見書を受けて、先ほどの後期基本計画と昨年2月に作成した基本的考え方(案)を再整理した。住民の検討会議、パブリックコメント、住民説明会など様々なところから意見をいただいたものを踏まえて、基本的考え方(案)から(案)をとったものに整理して全員協議会に示したい。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(3) 南信州地域の高校の将来像を考える協議会の意見・提案書について(資料No.3)

【説明者：加藤次長補佐兼庶務係長】

協議会がまとめた意見・提案書を1月20日(月)に県に提出した。

出席者について、県は原山教育長、三輪教育次長、内堀高校改革推進参与、塩野高校教育課長、協議会は牧野会長(南信州広域連合長)、勝野委員(阿南町長)、塩野委員(飯田市公民館長)、ほか事務局3名。

原山教育長から、「飯田OIDE長姫高校の取組みは、全国モデルとして誇らしい。県内へ広げていきたい。しっかり計画に反映させていきたい。」との発言があり、その後の県の定例会で、4つの地域協議会から提出された意見・提案書の内容を再編整備計画の第1次分の中に取り込んでいくという旨の説明がされた。さらに、3月の県教育委員会定例会で、第1次分が示されて決定されていく方針。

全体的に、飯田OIDE長姫高校を始めとした地域人教育についての評価が高かった。

塩野課長からは「2030年度以降のことも考えていかないといけない」という話もあり、このことは第2期再編計画の先の話になるが、今回提出した意見・提案書にも「中長期的な課題」と示しており、原山教育長も重要な視点として捉えているということであった。

高田事務局長補足： 県の教育委員会では、私どもも含めて今まで提案されたものについては、第1次分として3月に発表することになっている。具体的に飯田OIDE長姫高校のことがもし書かれるとすれば、この地域としてどう支援していくのかということは私どもがきちんと見なければいけないと思っている。

中長期的な課題は、基本計画にも記載しているがこの再編計画の先、これからの少子化を見据えたこの地域の高校のあり方についての検討を、行政と教育関係者で作っていく必要があると考えている。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(4) 看護師等確保対策修学資金貸与事業について(資料No.4)【説明者：松江事務局次長】

*令和2年度制度の概要について

募集期間は令和2年3月16日(月)～4月17日(金)、新規貸与枠5名以内。

この制度は3年ごとに見直すこととされており、今年度見直しをした。変更した点は、貸与枠を今まで新入生枠、在校生枠と分けていたが、バランスが悪かったので枠を撤廃し全体で評価の高い者から貸与することとした。

*制度の周知方法について

高校、市町村、医師会等へポスター、チラシを配布。

*修学生との懇談会について

5月2日(土)午後1時～午後3時、飯伊地区医療職就職ガイダンスに合わせて実施。修学生が一堂

に会する唯一の機会。

*今年度末で卒業する見込みの者は5名、就職先等はまだわからないが、全員が地元就職できればと思っている。

今年度、学校を退学した者が1人いるが、貸与した修学資金については今年度から来年度にかけて返還される。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(5) 人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）の取組みについて（資料No.5）

【説明者：松江事務局次長】

広域連合が事務局を行っている在宅医療・介護連携推進協議会が、人生会議に関する研修会、講演会を開催し、その普及に取り組んでいる。

人生会議とは、もしものときに備え、自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて話し合うもの。人生の最終段階になると自分の意思が伝えられない状況もでてくる、一度決めた意思でも時間とともに変わってくることもあるので、関係者同士で繰り返し話し合うプロセスが人生会議。書類を作って終わりというものではない。

この活動は、飯田医師会も非常に熱心に取組んでおり、協議会と連携しながら進めている。

これまでの取組みとして、普及啓発事業では専門職向けに「アドバンス・ケア・プランニング研修会」を実施し306名参加、その他には在宅医療・介護連携推進協議会の専門部会、幹事会、理事会それぞれで「事前指示書と医療・ケアについての要望書について」という演題で、高森町の後藤医師が講師として講演をしていただいた。

*事前指示書、医療・ケアについての要望書とは

事前指示書は、健康状態のときから人生会議に取り組むためのツール。医療・ケアについての要望書は、人生の最終段階における意思決定を支援するツール。

これらの普及について、医師会と協議会で連携して取り組んでいる。

*今後の取組み

・地域包括ケアシステムを考える住民フォーラム第2弾

令和2年2月24日（月・祝）エス・バードで、住民向けに講演会を開催。

・飯伊圏域介護保険事業者連絡協議会

令和2年5月21日（木）人形劇場で、介護事業関係者に対して後藤医師が講演。

・ミニ研修会

令和2年度は、町村、公民館単位等小規模の集会において、人生会議、事前指示書についての研修会を開催。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(6) 稲葉クリーンセンターの運転状況について（資料No.6）【北原飯田環境センター事務長】

ごみ搬入量は12月に前年比99.54%となり、稼働開始から増加傾向が続いていたが、3年目となりわずかではあるが増加は抑えられてきている。

委託収集ごみは前年比102.65%で増加傾向が続いているが、直接搬入ごみは前年比93.56%と減少している。分別指導や啓発活動の効果がでてきたものと考えられる。

ただ、搬入量の多い状況は続いており、ごみ処理の状況に特段の変化は出ていない。

今年度の予測搬入量は、前年より1.3%程減少すると見込んでいる。

資源ごみ、焼却不適物、産業廃棄物の混入が見受けられている状況で、ごみの適正排出の徹底、産業廃棄物の混入防止が大きな課題であると認識している。

今後の取組みとして、啓発活動、搬入車両の検査、産業廃棄物混入抑制の3つを柱として、構成市町村、関係機関と連携を図りながら引き続きごみ減量化キャンペーンに取り組んで行く。

啓発活動については、その対象を事業者も含めた広範囲に捉えながら広報やメディアの活用、ポスタ

一、チラシなどを配布し、継続して粘り強く周知に努めていく。来年度からは稲葉クリーンセンターで小学生を対象とした環境学習講座を開催し、施設を見学した後、正しいごみの分別を学習してもらい各家庭でのごみの分別の徹底、ごみの減量化に繋がればと考えている。

搬入車両の検査は、現在実施している月4回の展開検査を継続し、焼却不適物の混入抑制、分別指導にあたり、必要に応じて全量検査を実施する。

産業廃棄物の混入抑制については、車両の検査を行いながら事業者向けに産業廃棄物の理解向上と適正排出を目的としてポスターやチラシを配布し、事業者向けの分別ガイドブックを作成して配布できればと考えており現在取組みを開始している。

いずれにしても、受入側だけでは対応に限界があり各市町村に引き続きご協力いただきたい。

台風19号による災害ごみの受入れについて、即時対応できるよう体制を整えてあるが、本日現在被災自治体からの連絡は受けていない。当初は3月末までの受入れとしていたが、4月以降も引き続き協力体制を維持していきたいと考えている。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(7) 飯田広域消防本部から(資料No.7)【説明者：有賀消防次長兼総務課長】

令和元年「火災・救急・救助年間統計」の概要について

火災は前年比24件の増加。増加の要因は、放火及び放火の疑いが12件で前年より10件増加したこと、もう1つは住宅火災が13件増加したこと。

放火及び放火の疑いについて、過去5年間の統計を分析してみると、出火時間帯は午後7時から翌朝午前6時までが約7割を占めている、主に住宅及び空き地などの付近の集積場所が出火箇所となっている。

住宅火災の出火原因について、昨年は近年に報告のない例として焼却炉が5件、煙突が4件、風呂釜2件。こういった原因は、家庭における維持管理の不適と習慣づけに起因するものと推察される。

たき火等の屋外の火の取り扱いが原因の火災は前年より5件減少しているが、5年連続で30件を超える高い水準となっている。出火時間は午前10時から午後4時までの時間帯が約8割を占めている。出火行為者は50歳以上が約8割。

今後の対策としては、家族ぐるみで住宅周辺の整理整頓をすること、住宅の適切な維持管理をすること、習慣を確認すること、これらを効果的に広報して取り組んでいくということを消防としてもやらなくてはいけない。

広報の方法としては、車両広報と色んな研修会、講習会にお邪魔しての講話など。農家の剪定講習や干し柿の加工技術研修会など。もう1つ市町村の理解をいただき、高齢者クラブなどに派遣をさせていただく。それ以外にも、安全協会、防火管理者協議会等、関係団体と連携をしていく。

消防署では、出火時間の多い時間帯に生活道路まで入り込んでいき車両広報を実施。たき火を見かけたら一声掛けるといった直接指導、救命講習会などでの広報活動、夜中における放火対策としての車両巡回を展開している。

3月1日から3月7日までは「春の火災予防運動」、3月1日から3月31日までは「たき火火災ゼロ運動」を展開し、これらの取組みについてしっかり行いたい。

各消防団長、市町村防災担当者にも協力をお願いして取り組んでいく。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(8) 後援依頼について(資料No.8)【説明者：加藤次長補佐兼庶務係長】

審査案件1件。

「第5回うるぎトライアルRUN」、昨年も後援依頼があり承諾しているもの。昨年は台風19号の影響により「第4回うるぎトライアルRUN」が中止となった。第5回の開催日は令和2年10月11日。

→ 異議なし、承認。

(9) その他

- ・南信州阿智村清内路煙火等資産化事業報告会について【説明者：櫻井次長補佐兼広域振興係長】

民俗芸能の資産化事業として、県の元気づくり支援金を利用して平成29年度から3年間にわたり、阿智村清内路の手づくり煙火を中心に南信州の煙火文化の記録事業に取り組み、このたび報告書1冊と映像記録3本が完成した。この成果をより多くの方に知っていただくため、3月1日に飯田市美術博物館にて全体報告会、3月7日に阿智村中央公民館にて阿智村報告会を開催する。

- ・南信州自然エネルギー普及協議会講演会について【説明者：松江事務局次長】

講演会「気候変動リスクと卒炭素への道」について

8月の連合会議で後援の承認を得たものだが、台風19号の影響によりこの時期の開催となったもの。2月29日、飯田市松尾公民会にて開催される。

- ・エス・バード通信、信州大学航空機システム共同研究講座修了生研究発表会について

【説明者：高田事務局長】

南信州・飯田産業センターが発行するエス・バード通信。エス・バードで行われた各イベントなどを掲載したもの。これからは定期的に発行されるので、その都度配布する。

信州大学航空機システム共同研究講座修了生研究発表会が2月20日に開催される。修了生5人が研究発表をする。興味のある方は申込みをしていただき聴講していただきたい。

予算編成の際に意見をいただいたエス・バードの状況、環境試験機器等の状況について、1年間の整理をした上で、4月の広域連合会議で産業センターから直接首長方に報告ができるよう準備していく。

- ・「いつくしみふかき」について【説明者：松江事務局次長】

南信濃出身の遠山雄さんが監督、主演を行い、渡辺いっけいさんも主演する映画。全てのロケを遠山郷で行ったもの。地元住民も参加して撮った映画。色んな賞を受賞している。

2月14日から千劇とトキワの2館同時上映が始まる。是非、ご覧いただきたい。

4 長野県

(1) 南信州地域振興局

- *令和2年4月組織改正について

南信州地域に関係のある部分について説明する。

①南信州地域振興局「リニア活用・企画振興課」の設置

県庁のリニア整備推進局が所管する伊那谷自治体会議の運営やリニアバレー構想の推進業務を当局の企画振興課に移管をし、リニア活用・企画振興課として再編するもの。これにより現地に近いところで企画振興をしていく。

②地域振興局環境課の再編

専門性の強化のために地域振興局環境課の業務の扱いが再編されることとなり、当局の環境課が所管している廃棄物業務が上伊那地域振興局に集約される。

③「農業農村支援センター」の設置

多様な担い手の確保、農村の活性化等、中山間地の課題に迅速、的確かつ効率的に対応するため、現在の農政課と普及センターを統合して、農業農村振興課と技術経営普及課からなる農業農村支援センターを各地域振興局に設置。

- *地区防災マップ、災害時住民支え合いマップの作成について

これらのマップは台風19号の災害でもこれらのマップは活用された。

長野市長沼地区では、災害時住民支え合いマップを作成しており、有事の際は住民同士の呼びかけをして避難するよう、区として日ごろから取り組んでいた。

台風19号の日は、防災無線で避難指示等を広報したが、大雨のため内容が聞き取れなかった。しかし、

地域で声を掛け合って発災前に避難行動をとったため、この地区では人的被害がなかった。

南信州管内でもいつ災害が起こるかかわからないので、この地域から逃げ遅れる者が出ないよう地区防災マップ、災害時住民支え合いマップを是非作成していただき、適切な避難行動に繋げていただきたい。

*市町村減災トップフォーラムの開催について

台風19号の災害を踏まえて、市町村長を対象に大規模風水害を想定した実践的な演習を取り入れた市町村減災トップフォーラムを、3月19日にホテル国際21にて開催する。

詳細については、市長会、町村会経由で通知される。防災に対する意識を全県で共有するためにも、多くの方に出席をお願いしたい。

(主な意見等)

阿智村：今年から県庁に営業局が設置されたが、南信州地域のどこかで活用しているところはあるのか。広域連合でも営業局を利用して何かやるということも可能なのか。県下の状況についても教えていただきたい。

丹羽局長：営業局の状況は詳細を把握していないので、次回の広域連合会議までにまとめて、連合会議で情報提供させていただく。

(2) 飯田建設事務所

→ 報告事項なし。

(3) 飯田保健福祉事務所

→ 報告事項なし。

5 当面の日程について

2月24日(月・祝)	地域包括ケアシステムを考える住民フォーラム(エス・バード)	13:30
2月26日(水)	令和2年南信州広域連合議会第1回定例会(広域消防本部)	10:00

6 閉会…16:40